２０２６年１０月　治安情勢

トリニダード・トバゴ及び当館管轄国

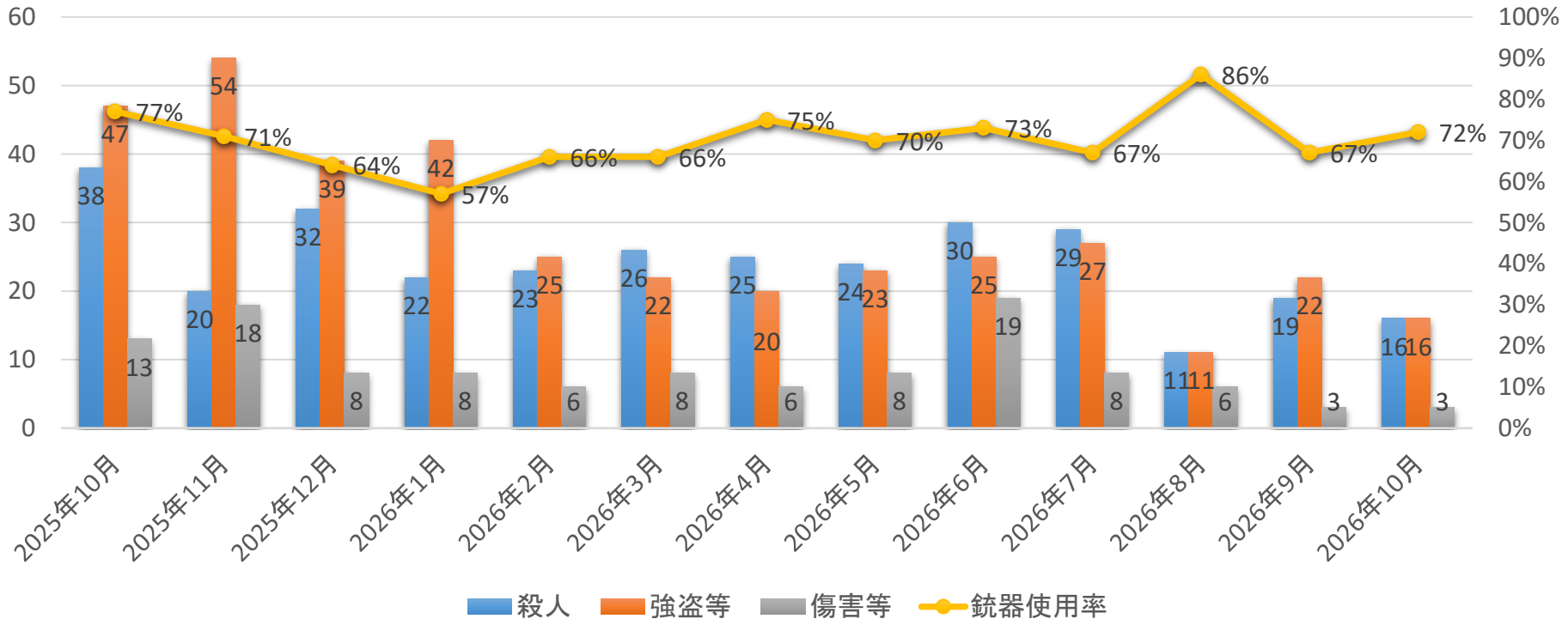
在トリニダード・トバゴ日本国大使館

管轄国別　犯罪発生件数（２０２６年１０月）

	国名	殺人	強盗等	傷害等	誘拐	性犯罪	銃器使用率
1	トリニダード・トバゴ	１６	１６	3	1	0	７２％
2	ガイアナ	１０	8	8	2	0	５０％
3	グレナダ	0	0	0	0	0	0％
4	スリナム	2	5	3	0	0	８０％
5	セントビンセント	2	0	0	0	0	５０％
6	セントルシア	6	0	1	0	0	８６％

上記の数字は新聞記事等を当館で集計したものであり、治安機関等が正式に発表したものではありません。

犯罪発生推移（トリニダード・トバゴ）

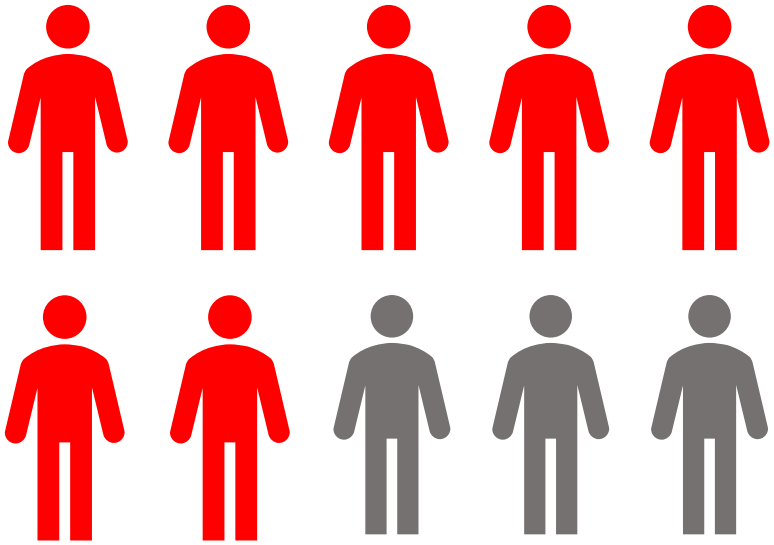


10月中の犯罪発生状況は、殺人件数（19件→16件）および強盗等件数（22件→16件）の双方が前月から減少に転じています。一方で、銃器使用率は72%へと再び上昇しており、依然として事件の大部分で銃器が使用されていることから、引き続き厳重な警戒が求められます。

上記グラフの数字は新聞記事等を当館で集計したものであり、治安機関等が正式に発表したものではありません。

些細なトラブルが致命傷へ

極めて高い銃器使用率

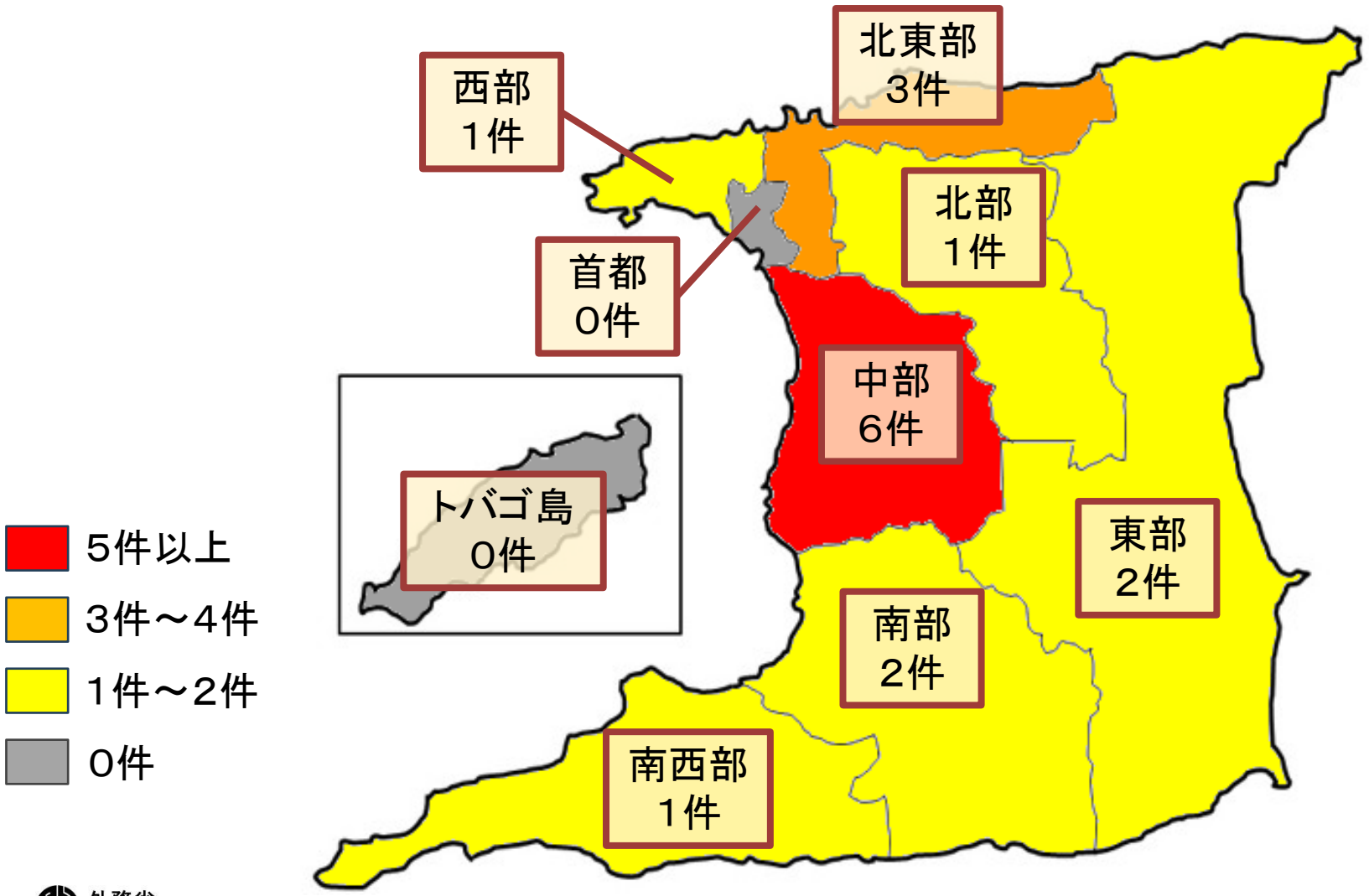


７２％

殺人・強盗事案の７２％で銃器が使用されている

公共の場での発砲事案も発生。周囲の状況に対する最大限の警戒が必須。

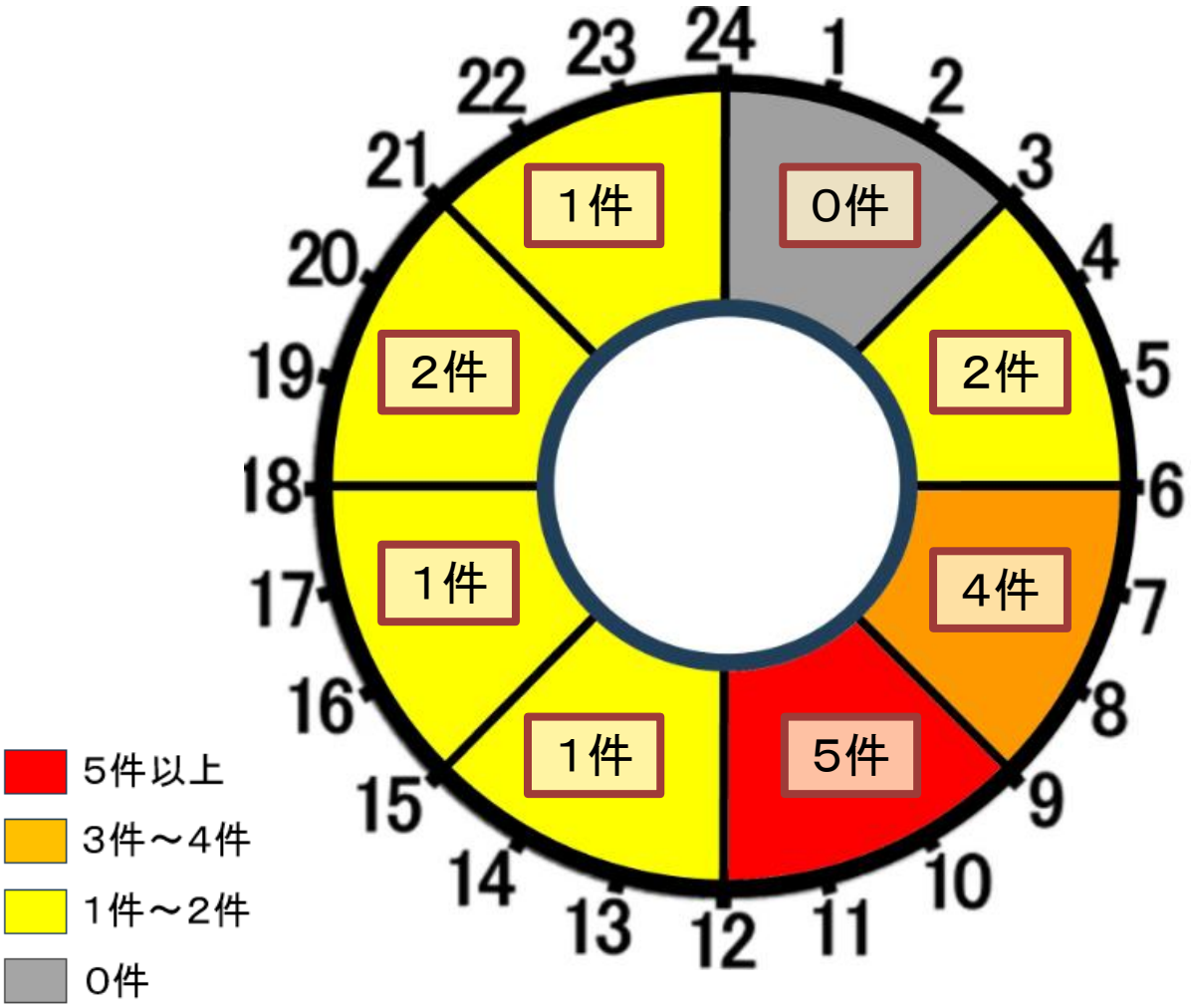
トリニダード・トバゴ警察方面別
殺人事件発生件数状況（２０２６年１０月）



外務省
Ministry of Foreign Affairs of Japan

上記の数字は新聞記事等を当館で集計したものであり、治安機関等が正式に発表したものではありません。

時間帯別殺人事件発生件数（２０２６年１０月）



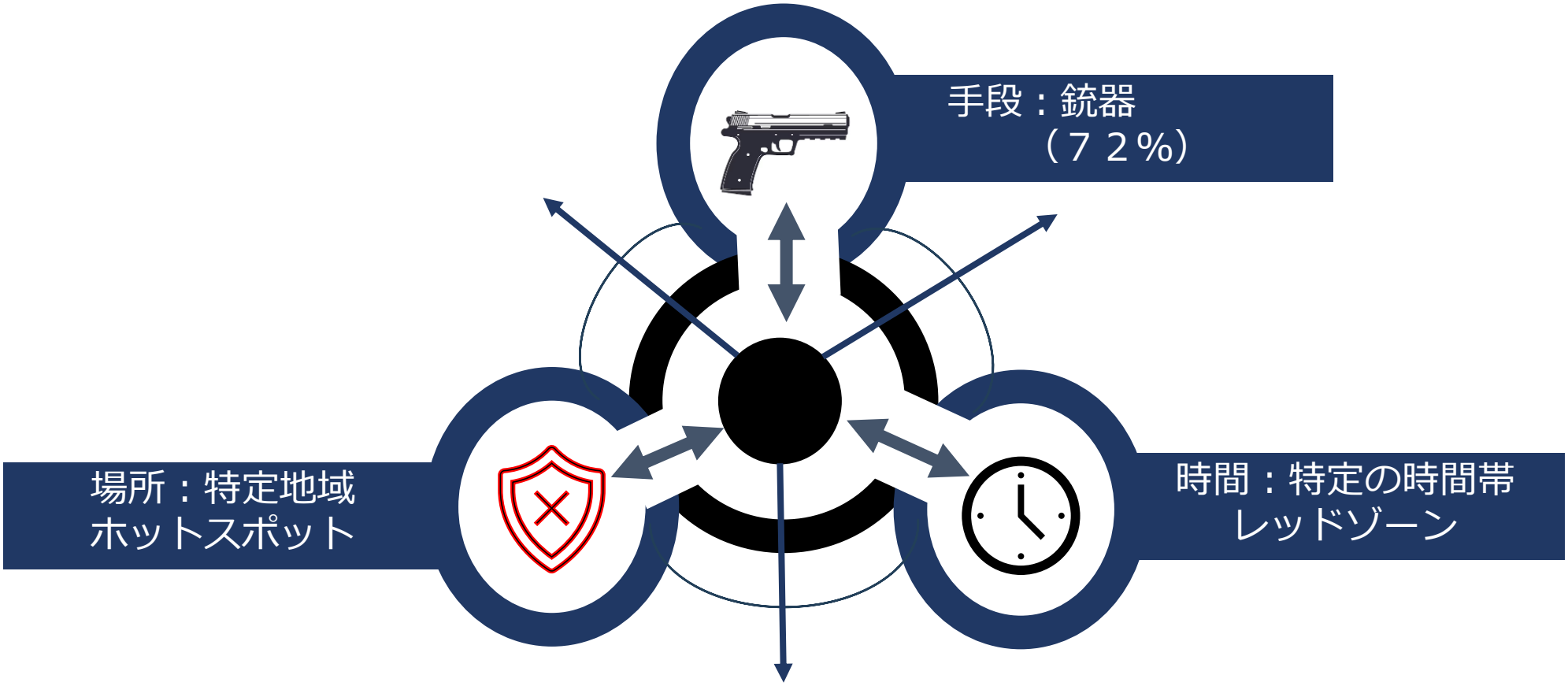
発生時間帯の傾向を見ると、午前9時から正午にかけての時間帯（5件）で最も多く発生しており、次いで午後の時間帯（15時～18時など）に集中しています。

夜間帯のみならず、日中の活動時間帯や移動時においても、周囲の状況に対する十分な警戒が必要です。

外務省
Ministry of Foreign Affairs of Japan

※注：上記グラフの数字は新聞記事等を当館で集計したものであり、治安機関等が正式に発表したものではありません。

危険は予測可能である



犯罪の『手段（銃器72%）』『時間帯（午前・日中の集中）』『発生地域（中部地区の多発）』には明確なパターンが存在します。危険の傾向を正しく把握し、ホットスポットや時間帯に応じた適切な回避・防犯行動を徹底することで、被害リスクを効果的に抑制することが可能です。

安全対策の基本的心構え

1	**目立たない**
	犯罪者やテロリストは、標的を選ぶ際にまずは目立つ人物に目を付ける傾向があります。
2	**行動を予知されない**
	行動のパターン化は、犯罪者、テロリストなどに攻撃計画を立てやすくします。
3	**用心を怠らない**
	家族全員、組織全体で気持ちを引き締める機会を定期的に持つことが必要です。